

2024年5月23日

滋賀県知事 三日月大造様
滋賀県教育長 福永 忠克様

大阪・関西万博に子どもたちを招待しないこと、 「カジノ」のための万博は今すぐ中止するよう求める緊急要望書

日本共産党滋賀県議会議員団
節木三千代
中山 和行

大阪・関西万博の開催まで11ヵ月となりました。日本共産党滋賀県議会議員団は、膨れ上がる事業費、パビリオン建設の遅れ、そして命の危険などの重大問題を指摘し、費用面でも、安全面でも破たんし陥っている大阪・関西万博の中止と、関連する県事業の中止を求めてきました。

しかし、滋賀県は県内の子どもたち約18万人(4～18歳)を、「教育旅行」(対象は小6～高3相当の約9.6万人)などの名目で3～4億円を投入し、万博会場に無料招待する事業や、「滋賀県ブース」出展など、開催準備を進めています。

こうした中、会場となる夢洲1区では3月28日、溶接作業中に発生した火花が可燃性ガスに引火し、爆発する重大事故が発生。5月22日ようやく、日本国際博覧会協会は今回の事故について、新たに天井部分10か所、床基礎部分の配管の通り穴に2か所の損傷が明らかになったと発表。事故のすさまじさが明らかになりました。協会はこれまで破損はコンクリート床と床点検口と公表。なぜ、天井部分の写真をこれまで公開しなかったのか、事故から消防署への報告まで4時間半もかかったのかなど、全容の徹底説明が求められています。

また、新たなガス対策として、ガス濃度測定を行うとしましたが、常時監視ではありません。また、パビリオン地区の地下鉄工事を実施しているにもかかわらず、「地表でのガス発生の可能性は極めて低い」として何の対策も打ち出されていません。

もともと夢洲1区は、「立入禁止区域」となっていたところです。事故の原因となったメタンガスは万博開催中も排出され続け、今後コンクリート等で地表を覆えば、メタンガスが地中に滞留することでさらに危険になるおそれがあります。

夢洲2区、3区は浚渫土砂や建設残土などで埋め立てられ、液状化対策も必要であり、地盤沈下も進んでいます。災害時の避難計画もありません。そもそもそのようなところに大規模集客施設を建設すること自体が無謀であり、これ以上工事を進め万博を強行することはもはや許されません。「いのちを危険」にさらしておいて何が「いのち輝く」でしょうか。

それにも関わらず政府と維新の会が万博に固執する理由は、IR・カジノです。「国策」として進める万博を利用してインフラ整備などをすすませ、カジノ業者の負担軽減を狙ったものです。万博は今すぐ中止すべきです。その万博に、18万人もの滋賀県の子どもたちを招待することは、絶対に認められません。よって危険な大阪・関西万博に、子どもを招待しないこと、万博中止を国に求めるよう強く要望します。